

# 踏み跡 < My mountains >

北アルプス	遠見尾根から五龍岳と鹿島槍ヶ岳	No. 130
-------	-----------------	---------

行きたいと思ってもなかなか行けない後立山。誰もが真っ先に足を入れたくなる後立山だが、前々回の爺岳山行まではなぜか私の足はこの山には向かわなかった。時間をかけて縦走しようとする人が多いが、私のプランは後立山を1~3日程度のコースに分割して、かつ少々無理をした行程でやってみようというものである。この考えで前回は爺岳に挑んでみた。そして第二回目今回は、あの長々と横たわる遠見尾根に単独行で挑戦することにした。

昭和 44年 7月 20日  
八王子からアルプス9号に乗車。真夏とはいえ平日なので空いている。充分に足を伸ばして缶ビールを楽しんだあと眠りについた。

昭和 44年 7月 21日  
夜が明けて青木湖の緑色の湖面を左手に見るころ目がさめ、あわてて網棚の荷物を下ろして下車準備。青木湖を離れて黒沢尾根の東側を走るようになると、やがて神城に到着。

5時23分、下車したのは私一人だけ。駅で朝食をとり、6時05分出発。まだ山はガスに取り巻かれており何も見えない。眠っているような駅前町の静かに通り抜け、踏切を渡りスキー場への道に入る。ゆるやかな道とはいえ、また早朝とはいえ夏のこと、30分も歩くと体中から出た汗がザックと背中の間をびったりと濡らす。

ひと汗かいてスキー場を抜ける頃になると、今度は平坦な道に飽きて睡魔が襲ってくる。こんな時は他愛ない雑談が目覚まししてくれるのだが、ひとり旅の独り言ではかえって眠くなる。睡魔との闘いは難しい。どうしても耐えられず、アルペンコース上部の草地でひと眠り。そばに亀がいるわけではないのでイソップに書かれる心配はなからう。

小一時間眠っただろうか、気分が爽快になったところでいよいよ最初の急登に入る。海拔1500mに入り、遠見小屋着は9時30分。まだ閉まっている小屋から流れ出てくる水をいただき、第一回目の昼食。五龍小屋の稜線までまだ標高差にして1000m近くある。なにしろスタート地点の神城駅と稜線間の高低差は1800m余りあるので、運を天に任せでもしない限りとてもやる気が起きない作業量だ。遠見小屋から50分で小遠見、海拔2000m。南東に長く尾を引く黒沢尾根がひととき黒い。大遠見の小雪溪に正午ちょうどに到着。乾いた喉を潤していると大阪弁の6人ほどのパーティが途中で採ったと言う山菜を入れたラーメンをご馳走してくれた。おまけにデザートとしてミルクまでつき感激の極み。下山していく連中にこれだけご馳走されたら頑張らないわけにはいかない。



五龍を目指す

大遠見のてっぺんに登るとシラタケ沢上部の小雪溪とカクネ里の大雪溪がもう手が届くような近さ。左手のカクネ里の上部がキレット、右手のシラタケ沢の上部が五龍小屋。ラーメンとミルクと自分の昼食とで元気百倍！と言いたところだが、やはり夜行の疲れだろうか体がだるい。残りの400mの登りがずんと重たい。しかしこれを登らないことには今日の予定が終わらない。とりわけ最後の300mがこたえる。足場は岩場がちになり、霧の間に間に五龍と五龍小屋とが見え隠れするようになると、さらに苦しい。山では、容易に到達し得ない景

## 踏み跡 < My mountains >

色を見ながらそこへ向かうことほど苦しいことはない。シナノキンバイとチングルマのじゅうたんのようには咲き広がる斜面に登りつめたところが五龍小屋。

ふわーっと全身の力が抜けるような気分。これが山でしか味わえない爽快さだろう。時計を見ると14時30分。ここは海拔2500m 後立山の稜線、神城駅を出てから5時間、標高差1800mを登ってきた。

尾根の西側は黒部の谷からは涼しすぎるぐらいの風が霧を運んで這い上がってくる。景色はまったく見えない。風をよけて東側の斜面にツェルトを張りひと休み。雪があるので水の心配は全くない。夕食は餅入りカレー、夕食の後少々仮眠(ヒルネ?)。18時を過ぎるとガスが晴れて五龍のゴツゴツした岩稜と唐松岳の丸い頂とが姿を見せ始めた。明日の天気やいかならん? 19時30分就寝。

昭和 44年 7月 22日

起床4時15分、相変わらずのガスで冴えない。5時50分出発、五龍への登りの岩礫の中にウルップソウによく似た花を発見。まさかこんなところにある筈はなかろうと思いつつ、これに勇気づけられて朝一番の登りの足取りが軽い。

五龍岳頂上6時25分着、唐松、白馬方面は快晴、剣立山方面は上層にのみ雲。どういうわけか、ここだけがいまだにガスの中。

気持ちよく靴底にフィットする岩稜。岩場の下りは馴れたもの、五龍とキレットの間はガイドブックでは3時間となっているが、何と1時間40分で通過。「三大キレット」とか「後立山で最大の難所」とか言われ、また毎年何人もの人が転落事故に遭遇したりもするが、さほどの心配も気負いもなく苦もなく通過。急な岩場という点では穂高のキレットほどではないし、歩きにくいという点では八ヶ岳のキレットほどでもない。こんなところで落ちる人は本当の初心者にはちがいない。半ば観光地化した北アルプスには不慣れた登山者が数多く入ってくるということから事故が発生しているのかもしれない。黒い岩の凸凹の間から冷たい風が霧を押し上げて、ヒヤーっと頬をなでる。

キレット小屋での小休止は30分。陽のあたらない岩陰は寒い。キレットから急登1時間半で鹿島槍ヶ岳北峰。ガスも薄くなり、太陽の光もわずかずつ肌に到達してくる頃。北峰と南峰をつなぐ吊尾根の窪地にはまだ雪が残っている。その雪どけの滴りの近くにイワベンケイが三つほど。

五龍小屋の残雪を汲んだポリタンの水は残り一口限りになった。最後の水、祈りをこめてゴクンと一息で飲む。全身にしみ渡るような一合にも満たない水、さあこれで西俣出合いまで水はないぞ。

ハクサンイチゲ、シナノキンバイ、………碧い空。

布引からの大下りが長い。黒部の風と安曇の風とを交互にかぎわけながら……。

冷池小屋で30分の休憩と軽食。高千穂平の下りに備えてファンタを一本買い水分と糖分の補給。こうも喉が渇いてはファンタ一本180円という値の高さなど気にははいられない。

下り道は先月通ったばかりのよくわかっている道。高千穂平を過ぎると鹿島槍は木の中にだんだん遠くなる。そしてやがて視界から去り、急降下ののち西俣出合に到着。徒渉点で沢の流れに顔を突っ込み、涸れよとばかりにガブ飲み。先月はここから源汲(げんゆう)へ歩いて大きなロスをしたので、今回は鹿島槍国際スキー場に登り、バスで築場へ下ることにした。黒沢尾根を約200m登り、スキー場の草原を通り抜けてバス停へ。

中綱湖を後にして木崎湖に沿って走る列車の窓に、薄い夏雲をまとった後立山の山並みがゆっくと流れ、汗をかいた後の体に一層の爽快さを与えてくれる。



< 鹿島槍の双耳峰 >

以上